

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

第 3 回 中山間地域振興特別委員会記録

日 時 平成 30 年 3 月 19 日 (月)

12 時 58 分～15 時 00 分

場 所 第 4 委員会室

【出席者】 飛野委員長 布施副委員長 三浦委員 西川委員 川上委員 柳楽委員
串崎委員 上野委員 岡本委員 芦谷委員 永見委員

【議長団】

【事務局】 小川局長 鎌原庶務係長

【執行部】 岡田部長 田村部長 岡橋課長 辺課長 大屋係長

議 題

1. 中山間地域対策プロジェクトチームについて
岡田部長からプロジェクトチーム設置について説明

2. 調査・研究テーマについて
 - 集落機能の維持対策を当面の調査・研究テーマとする。
 - 今回示した課題の中から数項目を事前に示し、次回の議論を行う。
 - 今後の大まかなスケジュールを次回の委員会で示す。

3. その他
 - 視察、勉強会の話があり、次回以降に協議することとなる。
 - 5月の議会報告会で住民の皆さんの意見を聞くこととする。

○次回開催 4月24日(火) 10時00分 第4委員会室

飛野委員長 ただいまから第3回中山間地域振興特別委員会を開催する。早速議題に入るが、その前に事務局から説明を。

小川局長 執行部にて中山間地域対策プロジェクトチームが作られたので、その説明を委員の皆さんにさせていただこうと思う。

前回 は 定義 の 関係 と 調査 ・ 研究 テーマ について ご 議論 いただいた が、定義 については とりあえず は 決めず に、課題 に 合わせて 決めていこう という 話で 終わっ てい るので、少し 話は する が 一旦 置いて おいて、先般 皆さん から 出された 調査 ・ 研究 テーマ を 一応 まとめた 部分 と、宿題 であつ た 執行部 の 方で いただいた 地域 課題 解決 事業 関係 の 資料 も いただい てい るので、それ を 見なが ら 意見 交換 が できれば と思っ てい る。

1. 中山間地域対策プロジェクトチームについて

飛野委員長 議題1について執行部からご説明をお願いします。

地域政策部長 今3月定例会においても、市長の施政方針に「中山間地域対策は重点課題に掲げて取り組む」と申し述べている。執行部側の中山間地域対策プロジェクトチームの体制についてご報告させていただく。

(以下、資料をもとに説明)

飛野委員長 大変詳しい資料だと思う。内容も予算要求の話まで載っていてスピード感がある。委員の皆さんはこの資料を熟読する時間がもう少し必要だろうか。この後は意見交換的にやってみたいのだが。

布施委員 5分ほど資料熟読の時間をいただきたい。

小川局長 では15分まで。

《 資料熟読 》

飛野委員長 読んでいただけたでしょうか。委員から聞いてみたいことがあれば。

岡本委員 当委員会とプロジェクトチームとの位置関係は。表には「情報共有連携」と書いてあるが、これはどう考えれば良いのか。委員会に報告すれば議会に報告する必要はないのか。中山間地域問題については大まかには同じ方向に行くのだろうが、各々軸足が違うのだろうと思う。その辺りの考えはどのように擦り合わせていくのか。執行部の考え方をお聞きしたい。

地域政策部長 元々こちらの特別委員会も中山間地域の様々な課題を研究されて、政策提言に結び付けることを設立趣旨にされていたかと思う。ただ、中山間地域問題は本当に幅広いので、優先順位を決めるなりして、絞り込んで深掘りしないと、政策に結び付かないと思われる。従って特に意見交換させていただきたい内容は、特に何をまず取り上げてやっていくのかという、絞り込みの部分は意識合わせをしておかないと、議会のお考えや研究されることと執行部が違う項目で進むのも、あまりよろしくない

のではないかと思うので、こちらの特別委員会と執行部とで、まずはその意識合わせをする。そのことに対して各々研究した成果を同じ土俵で突き合わせる必要があるようになってくるとは思っている。

岡本委員

特別委員会で議論した内容については、各所管委員会にて執行部から報告する流れになるのではないかと思っている。

地域政策部長

今後何を取り上げるかについてはこれから検討される。今後はプロジェクトチームと我々とは、例えば同じ目標があったにせよ別行動、別々に考えていって、どこかでそれを擦り合わせていくということか。

執行部が緊急性を感じている課題と、議会のお考えに、もしかしたら少しずれがあるかもしれない。それは各々で調査研究を行って、どこかでお互いにやっていることを同じ土俵に上げて、意識の共有を図ることが必要ではないかと私は思っている。よって当特別委員会の代表はプロジェクトチームで臨ませていただきたいし、項目によっては対応できる職員を呼んで話をさせていただくといった流れになるのではないかと思う。

岡本委員
飛野委員長

そうすると、別々で動く考えか。

別々という意味ではないと私は捉えたのだが。あちらも我々も、ある程度の意見はできているのだから、その擦り合わせをすることで方向性は絞れるのではないか。

西川委員

執行部からの報告を受けるにしても、こちらで考えるにしても、何の項目をやるかはある程度意識合わせをして、中心テーマを明確にしておいた方がやりやすいと思う。

岡本委員

プロジェクトチームで検討した物と我々が検討した物を、定期的に持ち寄って報告し意見交換をする場を設けていくのか、それとも、お互いの状況を報告し合って、ある程度の仕分けができた所でガッとやるのか。

地域政策部長
川上委員

それはどちらかと言えば、議会側のお考えに合わせたい。

基本的に議会と執行部とは相反する部分が多い。議会側で考えたことに対して質問ができ、答えられる体制があれば一番良い。こちらは情報を受けながら検討する形になるかと思う。全て一緒にはできない。どこで議会と執行部とを切るか。片方は執行する側、こちらはチェックする側。

飛野委員長

川上委員の話は基本的なこと。本日の議題2の中で、それらしき方向性を持った物が出てくる。その中から絞られていくのではないかと思う。

小川局長

委員会とプロジェクトチームの立ち位置の関係は、原則的には全く別だと思っている。執行部が案を持ってきて議会側がそれを追認して終わりになるのではなく、議会は議会ですっかり考える。執行部も執行部で考える。その中で定期的に進捗報告と意見交換をして、一緒に進めていくという形なのだろうと思う。同じ項目が上がってくれば一緒に議論はできる、違う物は違う物で研究して、執行部は予算要求に活かしていき、議会はそれを後押しする。

川上委員が言ったように議会は執行部のチェック機関だが、この特別

委員会についてはチェックというより応援体制を取りながら、自分たちの意見を政策に反映させてもらうことが一番なので、そういう立ち位置でいて欲しいと、事務局としては思っている。

岡本委員

結局議会は、地元の様子を見て、地元民と話をすることで中山間地の現状把握をし、考える。市の執行部は恐らくデータを見て、方向性を出してくる。それらの情報をお互いに持ち寄って意見交換をする、という意味で整理できた。

小川局長

情報量的には執行部の方が、正確で大量なデータを持っている。議員の皆さんは各地域から住民代表として出ておられるので、声を直接活かせる。「こういった声が出ているが、どういう状況だろうか」といったことを会議の中で質問しながら、固めていけば良い。立ち位置は別々だが、目標は一緒。その立場だけしっかりしておけば、情報交換ができるのではないかと思っている。

岡本委員

理解した。

飛野委員長

他の委員からのご意見は。

芦谷委員

資料4の人口減少問題対策本部の設置要綱について。議員は地域振興については散々言ってきた。今まで議員が言ってきたことを、この人口減少対策本部の中で整理して、振興策のある程度の柱は既にあると思う。それを出していただくのが大事。今更アンケートを取るとか、意見を聞いて回るといったことは間に合わない。

小川局長

今、岡田部長のもとで、執行部各課がどんな中山間地域対策をやっているかを網羅できるようまとめてもらっている。それができたら資料としていただいて、論議の種になる気がしている。

芦谷委員

今までの議員の発言等を下敷きにしながら、執行部が大量に持っている情報、尚且つ行政連絡員会議や連合自治会会合で出た意見をまとめてもらっていると思う。話を具体的に持って行かないと、今更各課に聞くような悠長なことではいけないと私は思う。

地域政策部長

情報を集めるにもやり方はあると思っている。参考までに基本になる11項目をお示ししているが、その中でどれが一番危惧されているかは、これまでの議員一般質問も含め色々ご示唆いただいている。例えば買い物問題、あるいは交通問題、あるいは草刈りや休耕地の問題など、いくつか出ているので、恐らくそれらが緊急対応を要する課題ではないかと思っている。ただ、それに対応するためにどのような施策をやっているのか、あるいは先進的に行われている自治体もあるので、今回の予算でも先進地勉強会のための予算や、講師に来ていただく予算も取っている。そういう意味では情報収集にもなるが、絞り込みをある程度やって、案を持って進めていきたい。

芦谷委員

先般、地域づくり里づくりの交流会があった。前から言っているが、公民館の位置付けが各自治区でバラバラ。問題は行政の縦割りを放置して、各自治区や旧町村の流れの中で放置しておいて、町中のように自治会もできない所もある。具体的に困っている所のボタンを早く押さない

と、差がこれだけあるのを放置したまま議論した所で、執行部が一番ボタンを押さないといけない所は分かっているんで、そこを早く押す施策を出していただかないと、今更これだけ差があるのをどうこう言うよりも、意識の差、仕組みの差を縮める努力、あるいは悪い所を直して良い所を習うことをしないと、議会がいくら声を上げててもできない。この仕事は執行部の物だ。市民生活の実態をしっかりと見て、前へ進める意識を持たねばならない。

小川局長

芦谷委員が言われることはそのとおりだと思うが、それは今まで議員個人でぶつけていた問題であって、議会としてまとめた意見をぶつけたことはない。議会として正式に提言すべき問題をまとめるのが、この特別委員会の場だと僕は思っている。

芦谷委員
飛野委員長
川上委員

ではまた後で言う。

他に。

取り組みのポイントが11項目ある。この特別委員会でも少子化対策が一番大事だという方向で来ている。あと芦谷委員が言われた公民館の関わり合い、学校や保育園の関わり合い、企業誘致の関係、これらもこの中に含んでくるかと思う。特に少子化問題は関わる部分が多い。取り組みポイントの中に入れて欲しい。そうすれば全部に亘る問題になる。

飛野委員長
川上委員
飛野委員長
布施副委員長

特別委員会の内部で揉んでいけば良い。

少し考えてもらいたい。

その他に何か。

当面のスケジュールだが、プロジェクトチームが設置され、議会側へ1回目の説明があった。その間の、中山間地域に関するデータの収集・分析・中山間地域指定の検討という項目がある。具体的に、チーム内で指定地域の具体案があるのだろうか。

地域政策部長

地域の指定には色々な考え方があると思っている。元々浜田市は全域が中山間地域指定を受けている。議会でも県の指定の流れについては情報共有されていると思うし、逆に我々メンバーもその資料をいただいて勉強した。指定については何某かの線引きが要るかどうか検討したいと思うが、施策に応じて境界が動くというやり方もあると思う。今この場で具体的な一案、二案というのは持ち合わせていない。検討は始めた。

検討した中で考えている一例としては、例えば旧浜田市も合併前には「過疎エリア」というのがあった。それを線引きにも使えるかもしれない、ということも考え始めたり。また草刈りの関係で言うと都市計画の指定の有無で線引きを変える例もある。ただ、すべての中山間の施策を一つの区切りで割ってやるのが良いかどうかは、そこまで結論が出ていない。

飛野委員長
小川局長

事務局から説明は。

部長の説明に関する資料は、最後に○で囲んだ地図がある。委員長からは都市計画区域が入った地図もいただいたが、そちらはコピーが綺麗にできなかったため、○印が付いた方だけ配っている。都市計画区域が

入った地図、支障木の件は前回の資料に付けて、説明もしているのでそれを見て欲しい。

円は浜田市中心部から8キロ。これは敬老乗車券の遠距離増額エリア。そこに少しでもかかっている町は全て対象に含まれる。委員長から参考資料として提供されたものを使わせてもらったので、確認いただきたい。

飛野委員長

その他ご意見があれば。

(「なし」という声あり)

2. 調査・研究テーマについて

飛野委員長

議題2について説明をお願いします。

小川局長

28年度と29年度の実践事例集を出していただいた。とても見やすく良いと思うが、「課題解決事業」は1年やって、これを継続していこうと思うと補助金は数年間出るのか。

地域政策部長

今回議会から、まちづくり総合交付金の課題解決特別事業の事例を示して欲しいという要望があり、平成28年度、29年度に実施された事業一覧を提出させていただいた。この課題解決特別事業は1年だけと要綱に定めてある。ただ、中身を精査していく中で、イベントは難しいと思うが、まちづくりに継続的に効果が期待でき、市内全域に広めていくことになった場合は、交付金事業ではなく何らかの政策として考えていくことはあるのではないかと思います。

小川局長

そこまで行っている事業はないということか。

地域政策部長

はい。まちづくり総合交付金は30年度に見直しの実施を考えているので、この課題解決特別事業も含めて見直しをしていきたい。

飛野委員長

委員からご意見は。

布施副委員長

プロジェクトチームの視察先はある程度固まっていると思うが、行先、内容、どういったメンバーが行くのか。

地域政策部長

元々3月議会で要求させていただいた内容は、例えば買い物に非常に苦慮しておられる地域の住民全員が出資者となり、サービスステーションや小売業、いわゆる商社的な事業を地域でやっておられる所がある。そこを見に行ったらどうかと思っている。行政職員だけでなく、地域の皆さんと一緒に掛け合っていきたい。具体的にどういう方をお誘いするかは、内容等もう少し色々な声を聞いて決めていきたい。

もう一方、視察とは別に、勉強会をするための講師も考えている。例えば、小規模多機能自治は雲南市が先進的に取り組まれているし、小さな拠点事業に取り組んでおられる自治体もある。先進地のまちの方に来ていただいてお話を聞く。その際は多くの方に聞いてもらえば良いと思っている。具体は今後詰めていくが、行政だけでなく地域の方と一緒にやる事業にしたいと思っている。

布施副委員長

視察や勉強会の内容は、この特別委員会にも速やかに報告していただいて、また意見交換できるものを考えておられるのか。

地域政策部長

視察に出かけた内容についてはきちんと整理してまとめて、共有する

<p>布施副委員長 地域政策部長</p>	<p>ことが大事だと思う。こちらの委員会にもご提供したい。 それは早い時期か。 視察自体の時期はまだ詰めていない。いくつか候補地はあるが最終的な詰めも十分ではないので、もう少し時間をいただきたい。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>このプロジェクトチームは、地域の方々を巻き込んで考えていくスタンスと考えて良いのか。視察に地域の皆さんが同行するという例は言われたが、他の案件についてはどうか。 これまで執行部は、提案はするが実行するのは住民だ、というような立ち位置のイメージが強いため、なかなか発生的に出てこないだろうと思っている。プロジェクトチームの皆さんは「我々もやるから地域の方もやりましょう」といったスタンスで考えておられるのかどうか確認したい。</p>
<p>地域政策部長</p>	<p>U・I ターンの体験メニュー受け入れに、やる気がある地域を応援してもらえるかという上野議員からの意見もあった。弥栄地域の中で小売業に何かできないかという点で話し合いをスタートさせている所もあると聞いている。各地域のお悩みを聞いて、もしお応えできる事例があるとすれば一緒に研究していくためにお声かけする。そういう進め方になるかと思っている。まずは地域の実情を聞いてみたい。既に把握している所もあるが。聞いてそれに効果的な視察になるよう事前学習をして出かけたい。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>一緒にやるスタンスで考えていると受け止めて良いか。</p>
<p>地域政策部長</p>	<p>はい。</p>
<p>芦谷委員</p>	<p>まちづくり総合交付金について伺っておく。30 年度に見直しされるが、この中身については議会やこういう場で中間報告はあるのか。見直しの中身について議会側からの意見反映のお考えはあるのか。</p>
<p>まちづくり推進課長</p>	<p>総合交付金の見直しということだが、現行交付金は 28 年度に大幅な見直しをしており、今度 30 年に見直すのは中間点での中間検証という言い方をさせてもらっている。見直しにあたっては執行部だけで検討するのではなく、議員産の意見や実際に交付金を活用していただいている地域の意見を踏まえて見直し作業に入ろうと考えているし、途中経過についても報告させていただこうと考えている。</p>
<p>芦谷委員</p>	<p>課題解決事業は評価している。例えばまちづくり推進委員会の傘下自治会の組織化の問題。場合によってはその中に高齢者クラブを各自治体に作ってもらうとか、あるいは高齢者の社会参加やサロンといった、目に見える形で、例えば障害木・支障木の伐採とか、住民自らが自分たちの集落を守っていくための思いとアイデアと実行というのが課題解決事業で担保されるように、総枠は増やす、メリハリを付ける、地域が活動しやすいようにする、そういった大胆な見直しはあるのか。</p>
<p>まちづくり推進課長</p>	<p>今回の見直しについては中間検証という見方なので、抜本的な見直しまでは考えていないが、課題解決に比重を置いたような交付割合の在り方等、課題解決に有効に使っておられる地域においては課題解決事業の</p>

充実を望まれる声もあるので、そういった声を聞きながら見直しや反映をさせていきたい。

飛野委員長

これにて執行部は退席いただいて構わない。

《 執行部退室 》

議題2について、説明をお願いします。

小川局長

(以下、資料をもとに説明)

飛野委員長

1時間経過したので暫時休憩とする。

[14時05分 休憩]

[14時15分 再開]

飛野委員長

会議を再開する。皆さんの意見をまとめてもらった。これが議会として提言するための叩き台になる。絞り込み方に関する考え方とスケジュールについて、皆さんからご意見をお聞きしたい。まず、事務局として何かあれば。

小川局長

最初にこれを作った時、4つの調査項目に分けたのは意図がある。議員の任期は4年間。1年1個ずつくらい提言ができていけば良いのかと思った。あと会議の回数については、本当言えばひと月に1回くらいは開いて意見交換してもらいたい。無理でもせめて2ヶ月に1度くらいは開いて、提言に向け執行部のプロジェクトチームと意見交換していただければと思っている。

飛野委員長

事務局としてのお考えを聞いた。30年度について逆算すると、あまり日にちがない。今日この結論は出にくいと思うが、絞り込みや考え方について皆さんからご意見を伺いたい。

岡本委員

事務局長の「1年に1個の提言」案に賛成する。執行部からは「4月以降のまちづくり交付金の在り方を考えてみたい」という話も出た。私は浜田公民館管内にいる人間として、町内会が存在しない町があること、元々あったが古株の住人が独善的にやっていたためにトラブルが発生し崩壊させてしまった町内もある。片庭は400から500世帯が集まっている。地域を巻き込んだ再編を考えていかないと、まちづくり総合交付金の手当の部分や協力体制もできない。この案件は中山間地域にも当てはまる所はあると思う。人口は確実に減り、減ったら組み分けはどうするのかをしっかりと協議する必要がある。

芦谷委員

30年度、31年度、32年度の3年間として見て、33年の任期は半年しかない。すると4年間よりも3年間のテーマに絞り込んで、町内会・自治会の有り様についてしっかり議論して、議会として方向性をまとめるのが良いと思う。他にも色んなテーマはあるが全部はできない。とりあえず集落再編について絞り込むべき。

小川局長

それは皆さんで論議していただければ、それで構わない。

三浦委員

私もまず、ベースにある自治というものをどのように考えていくか、集落機能の維持対策を取り上げて提言するのが良いのではと考えている。私個人的には校区の再編や公民館区の再編が、非常に重要だと考えている。そういった大きな枠組みの線引きをどうするかを考えていく時に、もっと小さな集落や町内会といった単位をどう考えるかが非常に大事。個々に色々な問題が出てきているのだが、休憩時間に柳楽委員もおっしゃっていたように、色々考えると最後は人に辿り着く。何事も、どのようにそこに取り掛かっていくかという時、一人ではなかなかできなくなってきている現代社会で、グループや組織の助け合いが大事になってくる。個ではなくある程度のまとまりで考えていく。ではそのまとまりをどのように作っていくのかといった時、集落やグループをまずもって考える必要があるのではないかと思う。まちづくり総合交付金というまちづくり制度がある中で、それを使える組織がそもそも少なくなっていくというのは、この事業の目的が達成されないことにもなりかねない。中身の検証プラスそれをしっかり活用していくための組織づくりが、まず根本として大切だと考える。

川上委員

私も色々な意見を聞くが、地域住民が自分たちの課題が何も見えてない。何が問題か誰も分かってない。それが一番問題なので、三浦委員の言ったように確かに再編も必要だろうが、その前に、本当に住民の人たちが何を考えているか全然分かっていない例がたくさんある。こちらから投げかけても、自分たちが何がやりたいか分からん。それを調べるのは大事。まちづくり交付金を活用するために、自分は何がしたいかを再度拾い出す。そうしなければ何をやっても駄目だ。課題が見えてない、問題点が分からない。そういう人たちに何をもって投げるかだけ。

芦谷委員

川上委員が言ったような体たらくは、住民そのものに、町内会の世話役に原因があるのか、行政にあるのか。

川上委員

多分、情報がないから。情報を与えるためのツールがないから。行政連絡員はどこにも居るが、その人たちが地域のことが分かってない。行政連絡員に対して再教育が必要だろう。貰った資料さえ配れば良い、で終わっている。

芦谷委員

私の意見は違う。上から目線は止めてもらって、人づくりとおっしゃるが、人は数多くいる。そういった人たちが活躍する場を作る仕組みがない。各集落で祭りも行事も進めているから、それなりに進んでいる。ただ、我々の目に見える人たちが地域に引っ込んでいるので、そういう人たちの力を引き出していくような仕組みを作れば良いと思う。そうすればまちづくり総合交付金も効果があると思う。

川上委員

僕も下から上がってくる立場としては良いと思う。分かってないのは、見えてない部分は見える必要があるのか。

永見委員

行政連絡員の話が出たが、私の地域では行政からの資料配布や伝達くらいしかない。それを含めて町内行事については、その人を中心にしてやる程度なもので。まちづくり委員会等の会議に出ても、その情報は皆

さんに伝わってないことが多い。市街地の町内会の話は今聞いたが、周辺部では町内会によっては独居の方が半数以上だったり、もう数年すれば4世帯くらいしかいないのではと心配されている地区もある。そうなれば地域行事どころか全てに支障をきたす。町内会の役割も、人数がないので2つも3つも重複して受け持たないとこなせない状況になっている。従って町内会の再編については、早急の検討課題に取り上げるべき問題だと思う。

飛野委員長
上野委員

他に。

芦谷委員が言われたように、テーマを3つ位に絞った方が良い。3年くらいでやる気持ちで絞ったら、町場と同じような課題も随分あるし、今から自治区制度の問題も出てくる。イノシシや林業の話ばかりではどうなのか、共通した所を集めて一緒にやらないと、また溝ができる。これを機会に自治区制度も絡めて、上下一緒に物を考える仕組みができれば良いと思う。

岡本委員

皆さんの地域では、どういう状態で町内の人たちに集まってもらっているのか。私の町内の話をすると、私は5町内約40所帯持っている。40所帯で総会を開くと言っても寄らない。町内で子ども会が再構築されたので、子ども会と大人で会を開こうと言っても年寄が寄ってこない。とにかく人が寄らない。町内の溝掃除をやろうと言って大学生を呼んだが半分しか寄らない。要は人が住んでいても寄らない。再編成したいのはもちろんあるし、リーダーも見つけない、次の人にお世話していただきたい気持ちがあっても、寄らない現状が私の地域にある。昔は集金常会等もあったが、私の町内には集会所もないので寄らなくなってしまった。それが1つの原因。人が寄る方法があるのか。

上野委員

電気代や水道代やガス代など、昔は集金常会で皆集めていた。それをなくしたら人が集まらないし、人の話ができない。月に1回は集まろう、引き落としは別にして毎月1回集まる。何か伝達事項があればそこで周知する。強制はしないので出ない人もいるが、そういう形が続いている。

岡本委員

それは知っている。羨ましい。私らは行政主導型で水道料金も何もかも全部振り込みにするから、皆さんに苦労はさせない、給食費も。そうやってスパッと切ってしまった。しばらくは交付金があったが、3年ほどでその交付金もなくなり、町内で寄る用事がなくなってしまった。そこを構築しづらい。

永見委員

集金常会の必要性が成り立たなくなるから、何かやらないとということで、町内会費をその場で一斉に集めるとか、宮の積立金を集めるとか、そういう形でいくらか集金常会の意味合いを持たせて、うちもだいたい37、38軒ほどあるが、余程の都合がない限りは欠席せずに皆さん来られる。一同に会して集めないと皆さんにご迷惑がかかるという意識が働いて、集まって来られる。

串崎委員

細かい話になってきているが、それはその時にやっていただきたい。今日の話を確認しておきたいが、折角4つあるので、スケジュール表を

作っていただいて、この4つをできればこなす方向でやりたいと私は感じている。集落機能の維持対策を1番に始めていただいても結構。この4つを数か月ごとに割って、全部話し合えば良い。最初に集落機能維持対策を話し合うということで、私はやっていただきたい。

飛野委員長

今日全部まとめはできないが、今随分と方向性的な話が皆さんから出てきた。串崎委員が統括的な話をしてくれたが、そういう線によって次回開催の時に、今申した集落機能の問題、それからまちづくり交付金の問題が出ているので、この辺の意見を皆さんに共有していただき、次回はこの件に絞っての会議にしていけたら良いのではと私は思っているのだが、どうだろうか。

三浦委員

ここに挙がっている1番から17番とか、このテーマそのものやっているとスケジュール的に難しい。例えば「集落維持」とは何ができる状態を集落維持と捉えるのかとか、そういった所がそもそも提言書の冒頭に来るのではないかと思う。そこを考えながら、提言書の全体の骨格みたいなものを想像しながら議論を進めていく方が良いのではないかと思うがどうだろうか。

飛野委員長

貴重なご意見で、私もその方向で思っている。しかしそれは今日は難しい。皆さんでお考えいただいて絞って、次回に集中して議論して結論を出しても遅くないのではないかと思っている。

芦谷委員

町内会や集落の維持、再編と、まちづくり交付金は裏表の関係。双方を間に付けて議論して方向性が出れば良いと思っている。

飛野委員長

今日はその程度に留めておいて良いか。

川上委員

次回に向けて何をすれば良いのか。

飛野委員長

結論ではないが、集落機能云々の話が一番多かった。そこにまちづくり交付金も絡んでくる。そういう所について「こういう物も考えられる」という物が出せたら皆さんに事前配布して、その内容に沿って協議ができたかと考えている。

川上委員

集落機能についての考え方も含めて考えてくるということと理解した。

布施副委員長

各地域から出てきた委員がおられて、色々な意見が出た。中山間地域の調査事項の課題項目が出ているので、4つのテーマをもう少し集約して、同じような項目で3つくらいに絞ってでも、取り掛かりのスタートとして集落機能の維持対策について議論し、それと同時に他の項目も進められるものや関連してくるものが出てくると思うので、とにかくスタートを切る。話し合いの中で新たに出てきた項目はその都度取り上げて考えてまとめていきながら、とにかく踏み出そうということだと思う。その間に執行部の予算付けも出てくると思う。

柳楽委員

とりあえず今日の時点では、それぞれがこのことについて勉強してくれという物はないということか。

布施副委員長

集落維持対策について具体的な問題を拾ってきて、これについて練った方が良いのではないかとか、こういう提言をした方が良いのではない

かとか、そういう意見を出すこと。

岡本委員

私の認識は、集落機能の維持対策にかかる課題という大きな枠の中に17項目あるから、そのうちの何項目かに絞ることがまず必要だろうと思う。何をどう絞るか皆さんに考えてきて欲しい。

布施副委員長

ここは中山間地域振興特別委員会である。浜田全体を中山間地域と捉えた場合は、町中の問題も捉えなければいけないだろうが、町中と奥とでは組織が全然違う。それを同じテーブルで話しても、組織ができてい

柳楽委員

る所とできてない所とが話し合っても、意見がまとまらない気がする。正副委員長と局長が協議して、改めてこの内容で話し合いたいという項目を皆さんに出してくださる、という話かと思って確認した。

飛野委員長

私は上手くまとめができないが、そういう方向に進めないとまとまらないと思ったので勝手に提言したのだが。この結論自体は慌ててすぐ出すのが正しいとは限らない。もう少し時間はある。提言項目は大枠で良い。その根拠、何故この項目を挙げたかについて共有するための議論に時間を尽くしたい。それが次回であり次々回であると思っている。

芦谷委員

今日皆さんから出た意見について、皆さんに考えてきていただきたい。

集落機能の維持対策の17項目をそれぞれ噛みこんでもらって、各委員の立場で意見を出してもらうことが1つ。そのためには3ページの対応策に関する意見も加味しながら。大事なものはスケジュール感をしっかりしてもらって、次には意見を出してもらって、その中で話がまとまって行けば、ある程度柱が作れると思う。その確認で私は良いと思う。

飛野委員長

ただ1つ言わせてもらえば、中山間地域の集落等は、町場の町内会集落にも当然影響してくるので、あまり中山間地だの町場だのを議論しなくても良いと思う。

定義の問題が並行して歩いている。それはそれで執行部側との絡みもあるんで、その部分は並行して出てくると思う。考え方としては今の分で良いと思う。

串崎委員

だいぶ小さくなった印象。今後皆さんが集落機能と維持対策を考えるのはもちろん賛同するが、9番を中心に持っていけば、17項目すべてを網羅して色んな意見が出るのではないかと思う。もう少し小さくまとめてもらえば助かる。

飛野委員長

以上でよろしいか。

(「はい」という声あり)

局長、どうだろうか。

小川局長

頭を抱えている。先ほど三浦委員が言われた話。集落とは本当に何なのか、集落に必要な機能とは何なのか、何ができれば集落なのか、それができなくなったら集落崩壊なのか、その辺の根本的な集落機能の在り方、集落機能とはこういう物だというのを踏まえた上で、それができなくなっているから集落再編が必要だとか、そういう方向に持って行って……集落の維持機能対策について、まずやろうという話になったので良いが、そういう所も今度意見を聞かせてもらって、では集落再編のため

には何がと議論を深めていって、ある程度固めたものを提言する。

例えば各自治区でやっておられる地域担当制みたいなものが、浜田自治区にはないので、集落維持をしようと思えば地域担当制でも取り入れてやった方が良くはないのかと提言するとか、そのような形に持っていけるように議論を深めていって、10月11月の予算要求時に何か提言できる方向性でスケジュールを組んでみたいと思う。それで良いか。

飛野委員長
柳楽委員

それで良い。

集落維持のために何が必要なのかといったことは、それぞれに勉強してきなさいということか。

小川局長
飛野委員長

はい。その上で意見を戦わせてほしい。

次の議題に移る。

3. その他

飛野委員長
小川局長
飛野委員長

その他で何かあれば。局長から。

その他はない。あとは次回開催日程を決めていただければ。

先ほどから話をしている、やはり我々自身が勉強しなければいけない部分もある。例えば集落1つについても、分かっているようで分かってない。勉強する必要があるのではないかと考えている。できたら視察も含めて、勉強会をしていきたいと思って提言する。何か意見は。

川上委員
芦谷委員

折角なので少し絞った段階で、それに対する視察をした方が良い。

例えば安芸高田市、雲南市、いずれも先進例があるので、とりあえず視察時期だけ決めておく。できれば各々の委員から候補地を出していただいて、事務局で調整していただいてもらえば良い。

飛野委員長
串崎委員
飛野委員長

するかしないかから話し合っていたらいいのだが。

すれば良い。

この件はよろしいか。もう1点皆さんに相談したいのは、今から議会報告会が始まる。何かこの委員会としてこの報告会を活用する手立てはないか。

串崎委員
飛野委員長

まだそれだけの話を我々ができていない。

こういう特別委員会ができたが、皆さんから意見があるかといったことを呼び掛けることはできないか。

(「それはできるだろう」という声あり)

小川局長

22日に広報広聴委員会がある。報告会は3月議会の報告をやってその後に意見交換という話になっているので、その中でこの特別委員会を紹介して、来場者から何か意見があれば聞いて帰ってきてもらうだけで良いと思う。もしあれだったら次回の広報広聴委員会で話を出してもらって、議会報告会でそういう意見も聞いて帰りたいのだけどというのを提案してもらおうと嬉しいと思うのだが。

飛野委員長
三浦委員

皆さんこれについてご意見はどうか。それで良いか。

折角聞くのであれば、最初に取り扱うテーマが「集落機能維持対策」となっているので、絞って聞く方が。

飛野委員長

皆さん今のご意見どうだろうか。

(「異議なし」という声あり)

視察の件、議会報告会の件、あと次回。

柳楽委員

視察は早い時期なのだろうか。

小川局長

視察はうちから相手方の議会を通してお願いするので、直接交渉するわけではない。できれば定例会シーズンを外した7月、8月くらいなら相手はしてくれると思う。

芦谷委員

できれば時期くらいは。

柳楽委員

他の委員会との兼ね合いや、うちは会派視察も考えていたりするので。

飛野委員長

次回にその日程を決めるのでは遅いか。

柳楽委員

来月になるが。

小川局長

できれば次回は、5月9日から創風会が視察に行かれる予定になっているので、7日か8日かで1度、今日の話をもとめた資料を僕が作るの
で、それで1回話をしておいて議会報告会に臨んでもらう形ができれば、
近くで良いかなと思うのだが。

飛野委員長

5月7、8日。

芦谷委員

4月末にしたらどうか。ひと月以上あるのだから。

小川局長

そうすると4月23、24、27日。

(以下協議)

4月24日(火)の10時から。承知した。

飛野委員長

第3回も何とか終了することができた。ちょっとした灯りが見えた気がする。今後ともよろしく願います。本日の会議を終了する。

(閉 議 15時00分)

浜田市議会委員会条例第65条第1項の規定により委員会記録を作成する。

中山間地域振興特別委員会 委員長 飛野弘二 ㊞